71 働き続けるということ

北信広域連合特別養護老人ホーム「千曲荘」でパート職員として勤続8年になる藤沢正幸さんをご紹介します。

藤沢さんはアスパラ栽培を中心とした家業の手伝いをしたり、スポーツ観戦や温泉巡りの趣味も楽しんだりしながら就業したい―とのご希望で、パート勤務をされています。

千曲荘での業務は洗濯物を扱うリネン担当のほか、介護員さんの補助も行います。その時々で優先順位を判断したり、自分が行う業務の時間配分も考えたりしなくてはならず、臨機応変さも求められる内容となっています。

藤沢さんは人懐こい性格で、職場の皆さんに話しかけながら、業務を進める気さくさもありますが、分担している役割については責任をもって、まじめに取り組まれています。

乾燥機から取り出した衣類は手際よくたたまれ、山になっていた洗濯物はあっという間にカラになりました。洗濯物が片付くとすぐ次の作業へ向かいます。

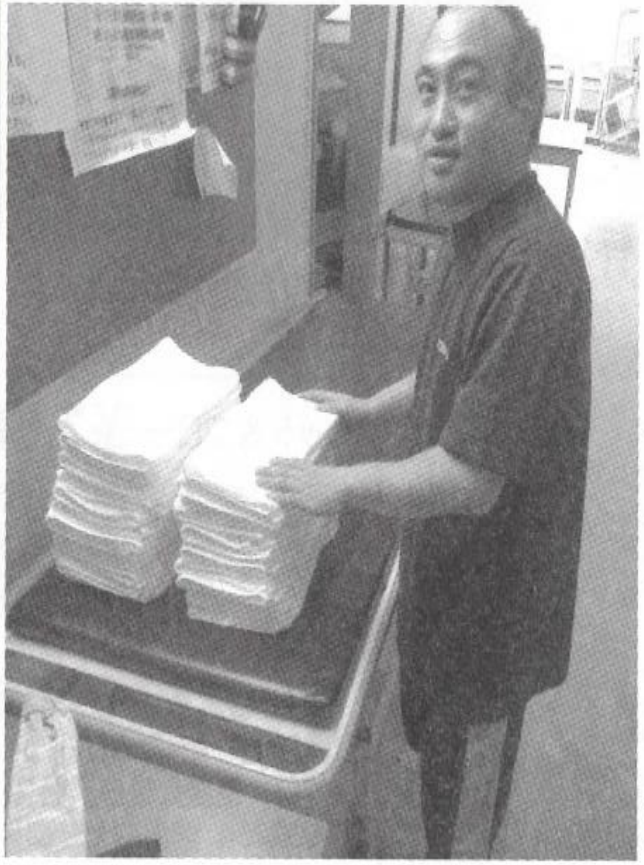
洗濯場では1人で黙々と手を動かす藤沢さんですが、利用者さんや介護員さんに挨拶だけでなく、自然に声を掛けられている姿が印象的です。

職員さんから「利用者さんへの声かけがとても自然で上手」「常に周りを楽しませようと声をかけてくれる」とお伺いしました。ユーモアがあり、職場を明るくしてくれる存在とのことです。

職場として藤沢さんへの特別な配慮はなく、日常的なコミュニケーションは職員誰もが行い、業務の確認を時々行う程度と、さらりとおっしゃいました。社会のルールや対人マナーなど、働いていくうえでのコミュニケーション力には得意、不得意がありますが、不得意な部分に注目し過ぎてその人らしさが失われてしまうのは残念です。長所が生かされるような職業選択が重要であることを改めて感じました。

職場が求める人物像や労働力と、藤沢さんの個性や希望する働き方が合って、8年という勤続年数につながっている印象を受けました。

障がいではなく個性を尊重し、1人の社会人として認められる職場や環境が、この地域にありました。



雇用支援ネットワーク部会員　宮﨑由美子